事業事前評価表

国際協力機構アフリカ部アフリカ第二課

１．基本情報

国名：ガーナ共和国（ガーナ）

案件名：第二次国道八号線改修計画

（The Project for Rehabilitation of National Trunk Road N8 (Phase 2)）

G/A 締結日：2018 年 12 月 12 日

２．事業の背景と必要性

（１） 当該国における道路セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

ガーナ共和国（以下「ガーナ」という。）では、貨物輸送量の約 95%、旅客輸送量の約 90%を道路交通が占めているが、幹線道路の 29%は損傷等により走行性が低下する「劣悪」な状態にあるとされる（ガーナ政府、2018 年）。首都アクラと内陸部を結ぶ中央回廊は国内物流の主要ルートであるとともに西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）により設定された国際回廊の一つでもある。ガーナの中期国家開発政策「An Agenda for Jobs: Creating Prosperity and Equal Opportunity for All: 2018-2021」では、新規道路の開発及び既存道路網の拡張と維持管理等に取り組むとしている。

国道 8 号線はガーナ第二の都市であるクマシと海岸部のヤモランサを結ぶ全長約 170km の幹線道路であり、中央回廊を補完する機能を果たしている。同道路は、1993 年に円借款「産業道路修復事業」により整備されたのち、北部 60km 区間については無償資金協力「国道 8 号線改修計画」（2009 年）により補修が行われたが、アシンプラソとアシンフォス間（約 30km）など南部区間においても舗装の損傷が著しく、アシンフォス市街地中心部においては慢性的な渋滞のため、道路改修・拡幅が必要である。

（２） 道路セクターに対する我が国及び JICA の協力方針等と本事業の位置づけ

我が国の対ガーナ共和国国別援助方針（2012 年 4 月）は、「経済インフラ（電力・運輸交通）」を重点分野とし、本計画は「経済インフラ整備プログラム」の中に位置付けられており、この方針に合致する。我が国はこれまで、円借款「クマシーパガ間道路修復計画」（1990 年）や無償資金協力「幹線道路改修計画」（2002 年）、無償資金協力「国道 8 号線改修計画」（2009 年）、円借款「東部回廊ボルタ川橋梁建設計画」（2016 年）により、道路回廊整備を支援している。

（３）他の援助機関の対応

世界銀行、アフリカ開発銀行、EU、中国、ブラジル等が西部、東部回廊の道路整備等を支援している。

３．事業概要

（１） 事業目的

本事業は、中部州において国道 8 号線南部区間の改修及び橋梁の架け替えを行うことにより、対象道路の円滑かつ安全な道路交通の確保を図り、もってガーナの主要経済圏及び内陸国との連結性向上に寄与するもの。

（２）　プロジェクトサイト／対象地域名

中部州（人口約 100 万人）

（３）　事業内容

ア) 国道 8 号線アシンプラソ～アシンフォス約 30km の 2 車線道路の改修（アシンフォス市街の既存道路の 4 車線化（約 1.2km)、既存橋（14m×1 橋）の架け替え含む）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、施工監理。ソフトコンポーネントなし。

（４）　総事業費

7,097 百万円（概算協力額（日本側）：6,739 百万円、ガーナ側：358 百万円）

（５）　事業実施期間

2018 年 12 月～2023 年 8 月（計 57 ヶ月）施設供用開始時（2022 年 8 月）をもって事業完成とする。

（６）事業実施体制

１）事業実施機関：ガーナ道路公団（Ghana Highway Authority: GHA）

２）運営・維持管理機関：GHA

（７）他事業、他援助機関等との連携・役割分担

１）我が国の援助活動：本計画は無償資金協力「国道 8 号線改修計画」と連続する道路区間の改修を行い一体的な成果発現を目指すもの。

２）他援助機関等の援助活動：特になし。

（８）環境社会配慮・貧困削減・社会開発

１）環境社会配慮

① カテゴリ分類：B

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドラン」（2010 年 4 月公布)に掲げる道路橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

③ 環境許認可：本事業の環境影響評価報告書は、環境保護局により 2019 年 8 月までに承認される見込み。

④ 汚染対策：工事中は大気質、騒音等について、同国国内の排出基準及び環境基準を満たすよう、大気質については散水による粉塵対策、騒音については適切な状態の建設機材の使用及び作業時間の制約等の対策がとられる予定。

⑤ 自然環境面：事業対象地域は国立公園等の影響を受けやすい地域またはその周辺に該当せず、自然環境への望ましくない影響は最小限であると想定される。

⑥ 社会環境面：本事業は商業用 6 軒、住居用 7 軒の非自発的住民移転を伴い、

JICA 環境社会配慮ガイドライン及び同国国内法に基づき JICA が作成支援した簡易住民移転計画（RAP）に沿って用地取得と住民移転が進められる予定。被影響住民から事業に係る特段の反対意見は出ていない。

⑦ その他・モニタリング：本事業は、GHA が、非自発的住民移転・用地取得の実施状況、汚染対策等についてモニタリングする。

２）横断的事項：特になし。

３）ジェンダー分類：対象外

＜活動内容/分類理由＞事業にジェンダー配慮等に係る内容が含まれない。

（９）その他特記事項：特になし。

４．事業効果

（１）定量的効果

指標名	基準値 （2013 年実績値）	目標値（2025 年） 【事業完成 3 年後】
年平均日交通量（台/日） アシンフォス アシンプラソ	 12,473 2,749	 18,800 4,500
輸送量　旅客数（百万人/年）	27.7	39.9
輸送量　貨物量（百万トン/年）	4.0	6.9
対象区間（アシンプラソ～アシンフォス）の走行時間（30km）（分）	32	22

（２）定性的効果

- 道路冠水等による雨期の交通遮断が改善され、近隣コミュニティ住民の市場・公共サービスの通年のアクセスが可能となる。
- アシンフォス市街地における道路及び橋梁拡幅により渋滞が改善されるともに歩道・交差点整備により交通安全が改善される。
- ガーナの主要経済圏及び内陸国との連結性向上。

５．前提条件・外部条件

（１）　前提条件

道路用地及び迂回路用地が確保され、電柱や地下埋設物等の移設が実施される。

（２）外部条件

特になし。

６．過去の類似案件の教訓と本事業への適用

マラウイ共和国向け無償資金協力「バラサ-サリマ間国道５号線橋梁架け替え計画」（2005 年）の事後評価等において、予算不足により十分な定期点検が行われていなかったことから、維持管理に係る予算を十分に確保することの重要性が指摘されている。JICA による「アフリカ（エチオピア、ガーナ、タンザニア）資金協力事業による道路整備計画のあり方（基礎研究）報告書」（2013 年）等では、アフリカの他国で実施された道路分野の無償資金協力案件において、完工後、轍掘れやひび割れ等の品質低下が生じた事例があり、計画交通量の設定や舗装構成等の設計条件について留意すべきとの教訓を得ている。本事業においては、協力準備調査にて維持管理要員及び

予算の確保について実施機関に申し入れ同意を得たとともに、対象区間全線にわたって舗装たわみ量調査を実施し、交通解析及び軸重調査等の結果を踏まえ舗装設計を行った。また、雨水溜りにより舗装の損傷が進行する区間については嵩上げにより対応する計画とした。

７．評価結果

本事業はガーナの中期国家開発政策及び我が国及び JICA の協力方針・分析に合致している。また、ゴール８（経済成長と雇用）及び SDGs ゴール９（インフラ、産業化、イノベーション）に貢献すると考えられることから、本事業の実施を支援する意義は高い。

８．今後の評価計画

（１）今後の評価に用いる指標

４．（１）～（２）のとおり。

（２）今後の評価スケジュール

・事後評価 事業完成３年後

以　上